



町の白山神社に奉納される、一人立三匹獅子舞の勇壮かつ独特な舞です。

宇都宮城下の大火によって焼失した宇都宮大明神(二荒山神社)再建をきっかけに、天保9(1838)年に、関白獅子舞の技法が中里西組へ伝わったものです。

[昭和51年9月22日 市指定]

立伏のツバキ C・1



推定樹齢450余年、樹高8m、目通り周囲2m、枝張り東西8m、南北10.4m。立伏の屋敷跡にある、濃赤色一重咲きのヤブツバキで、南側の水田に面している部分のみが開けていて、枝は南側に向かい張り出すものとまっすぐ上に延びるものがあります。

[昭和47年1月21日 県指定]

シダレコウヤマキ D・2



推定樹齢200余年、樹高19m、目通り周囲1.85m、枝張り東西18m、南北8m。枝垂性のコウヤマキです。コウヤマキは暖地性の常緑樹で、本県には自生はしていません。このコウヤマキは主幹中央部付近から2つに枝分かれています。枝のほとんどが垂れているため、全国的に見ても非常に珍しいものです。

[昭和52年7月29日 県指定]

下ヶ橋の三ツ股カヤ ■ C・3



推定樹齢500余年、樹高18.5m、目通り周囲5.1m、枝張り東西16m、南北16m。母屋北側にあるカヤで、地上1.5mの所で3本に大きく枝分かれています。樹高はありませんが全体の姿が見事であり、樹勢も盛んです。なお、享保8(1723)年に起きた「五十里洪水」の時に、近在の十数人がこの木に登り難を逃れたと伝えられています。

[昭和46年5月14日 県指定]



白沢甲部彫刻屋台

天保4(1833)年に製作された、外輪式彩色彫刻屋台です。鬼板と懸魚には唐獅子、正面の柱には龍の彫刻がまきつけられ柱隠の様に彫れており、眼にはハメ込みのガラス玉が用いられています。全部で12枚になる外障子・内障子には、十二支の彫刻が施され、この屋台の特徴となっています。

[平成2年12月6日 市指定]



東組彫刻屋台

弘化2(1845)年に製作された、外輪式彩色彫刻屋台です。唐破風の螺細の彩色や脇障子の鶏・鬼板・懸魚の玉眼金龍など当時の彫刻と見られ、状態は良く、当時のすばらしい彫刻や彩色彫金技術の高さを物語っています。

[平成4年7月1日 市指定]



西組彫刻屋台

昭和9(1934)年に製作された内輪式白木彫刻屋台です。高欄と障子には彩色がされています。彫物の題材は龍をはじめ唐子牡丹・鯉・亀・鶏・花鳥などです。

[平成4年12月10日 市指定]



天王原彫刻屋台

大正7(1918)年に製作された外輪式白木彫刻屋台です。鬼板・懸魚には文政年間の作と思われる龍・牡丹・雉などの繊細な彫物が見られます。

[平成4年12月10日 市指定]



東下ヶ橋天棚

慶応2(1862)年に製作された、重厚な白木彫刻天棚で市内の中で最も大きいものです。

1・2階とも後部面が前面と同じ唐破風・鬼板と懸魚の彫物で飾られている珍しいものです。鬼板は波に龍をはじめ唐獅子牡丹など多種多様です。特に正面障子周りの彫物は、牡丹・桜・孔雀などを彫り上げ、幅3mにも及ぶものです。

[平成3年3月30日 市指定]